

市長から

リオで開催されたオリンピックでは、日本人選手の活躍によって多くの感動をいただくことができました。間もなく開催されるパラリンピックにおいても、国籍を超えた友情やフェアプレーが我々を感動させてくれるものと確信しています。

そして、いよいよ4年後は東京での開催です。オリンピック・パラリンピックは、スポーツの祭典であるのみならず、文化の祭典でもあります。日本の伝統文化を世界に発信し、観光にも結び付けることができます。貴重な機会でもあります。本市も今後そのような市のスポーツ・文化の振興や観光施策の推進の可能性を



華やかな衣装で行進する朝鮮通信使行列(昨年の瀬戸内牛窓国際交流フェスタ)

模索しながら東京オリンピック・パラリンピックへの関わり方を研究していきたいと思えます。現在、瀬戸内市に関連した案件として、二つの世界遺産の登録に向けた動きが起きています。

一つは、朝鮮通信使を世界記憶遺産に登録しようというもので、すでにNPO法人朝鮮通信使縁地連絡協議会を通じて、韓国の財団法人釜山文

化財団とともに申請を行っています。この登録を強力に推進するため、縁地連絡協議会の会員とともにパリのユネスコ本部を訪問し、レセプションなどのPR活動を展開する所存です。

また、長島愛生園、邑久光明園を中心としたハンセン病療養所を世界遺産に登録する動きについては、その実現可能性をさらに見極め、地元の方々と対話を重ねながら、まずは国の登録有形文化財への登録を模索し、平成21年4月に施行したハンセン病問題の解決の促進に関する法律に定められた、歴史的建造物の保存などハンセン病およびハンセン病対策の歴史に関する正しい知識の普及啓発その他必要な措置を講ずるための取り組みを国に促していく所存です。

旧玉津小学校跡地活用

平成25年3月に閉校となった玉津小学校については、玉津小学校統廃合準備委員会からの要望に基づき、地域雇用の創出と地域の活性化を目的とし、事業者からの企画提案募集を行いました。

その結果、1事業者から企画提案書の提出があり、地域代表者、学識経験者、職員で構成する「旧玉津小学校跡地利活用プロポーザル審査委員会」において審査した結果、企画提案内容は適当との評価により、当該事業者を事業実施候補者に特定しました。事業内容は、平成30年度に専門学校と日本語学校を開設し、平成32年度に専門職業大学の設立を目指すこととなっています。



利活用事業が決まった旧玉津小学校跡地

用語の解説・備考

世界記憶遺産
国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)の主催事業。危機に瀕した古文書や書物などの歴史的記録物を最新のデジタル技術を駆使して保全し、一般に広く公開することを目的としている。

子育て広場づくりプロジェクト

本年度、少子化対策重点推進交付金を活用し、「瀬戸内市民がつくる日本一の子育て広場づくりプロジェクト業務」を実施しています。

この事業は、既存の公園や施設で、子育て支援活動に自主的に関わる市民を増やすとともに、子育て世代のつながりを強めていくことで「安心して子どもを産み、育てることができる地域づくり・人づくり」の基盤をつくることを目的としています。

現在、子育てのボランティアや親子クラブの役員などで構成した子育て広場推進協議会を設置し、子育て広場を活用した子育て支援体制の充実を図るために必要な企画などについて協議しています。

さらに、市民の参画・協力によるワークショップやセミナー、インタビュー調査や子育て中の保護者へのアンケート調査などを行い、子育て広場についてのニーズや課題な

どの分析を行う予定です。

今後、これらの調査結果などを踏まえて子育て広場の指針となる基本構想を策定し、「安心して子育てができるまち」の実現に向け、努力していきます。



実践活動として、邑久子育て支援センターで親子体験型ワークショップを開催し、参加者の意見を聞きました

上半期の火災救急概況

本年1月から6月末までの上半期の火災件数は12件で、前年同期より4件増加しています。火災種別で見ると、建物火災7件、林野火災1件、その他の火災4件となっています。

教育長から

学力・学習状況調査

次に、救急の状況ですが、出動件数は738件で、前年同期より47件の減少となっています。事故種別では急病が490件で66・4%、年齢別では65歳以上の人が460人で64・8%、程度別では軽症が260件で36・6%であり、急病・高齢者・軽症者が依然高い割合となっています。このことから救急車の適正利用、高齢者の転倒・転落事故を防ぐため、「予防救急」の普及啓発を継続し、救急件数の抑制に努めていきます。

岡山県の学力・学習状況調査は、本年度も中学校1年生を対象に、国語、社会、数学、理科の4教科で4月に実施されました。この学年は、昨年度実施された小学校6年生での全国調

査結果と比較すると、数学、理科では県平均を上回るなど改善が見られますが、国語、社会は課題となっています。市独自の学力・学習状況調査は、小学校4・5年生と中学校2年生を対象に、国語と算数、数学の2教科で実施しました。小学校4年生の算数を除き、目標値と同等か上回る結果となっています。

両調査を通じて、学習面では、資料や情報から課題解決に必要な情報を取捨選択することについてはやや改善が見られたものの、条件に合わせて理由などを説明する表現に関する問題については課題が見られます。生活面では、家庭でゲームをする時間や携帯電話、スマートフォンの使用時間が1時間より少ない生徒は、それ以上の使用時間の生徒より、正答率が高い傾向が見られています。

今後も学力・学習状況調査の結果を真摯に捉え、教師の授業力と児童生徒の学習意欲の向上に生かしていきます。

瀬戸内市民図書館の利用状況

6月1日に開館した瀬戸内市民図書館は、7月末までに38,626人の来館者がありました。また、貸出冊数は、市内全図書館の合計が64,381冊でした。

この2カ月間に一度でも貸出の利用をした数を表す実利用者数は、全館で4,554人でした。市民のうち12%の人が、この2カ月間に図書館で本を借りています。

今後、市民のニーズを的確に捉え、市のまちづくり、ひとづくりに貢献できる図書館へと発展させていきます。



瀬戸内・喜之助フェスティバルの会場にもなり、来場者でにぎわう瀬戸内市民図書館